

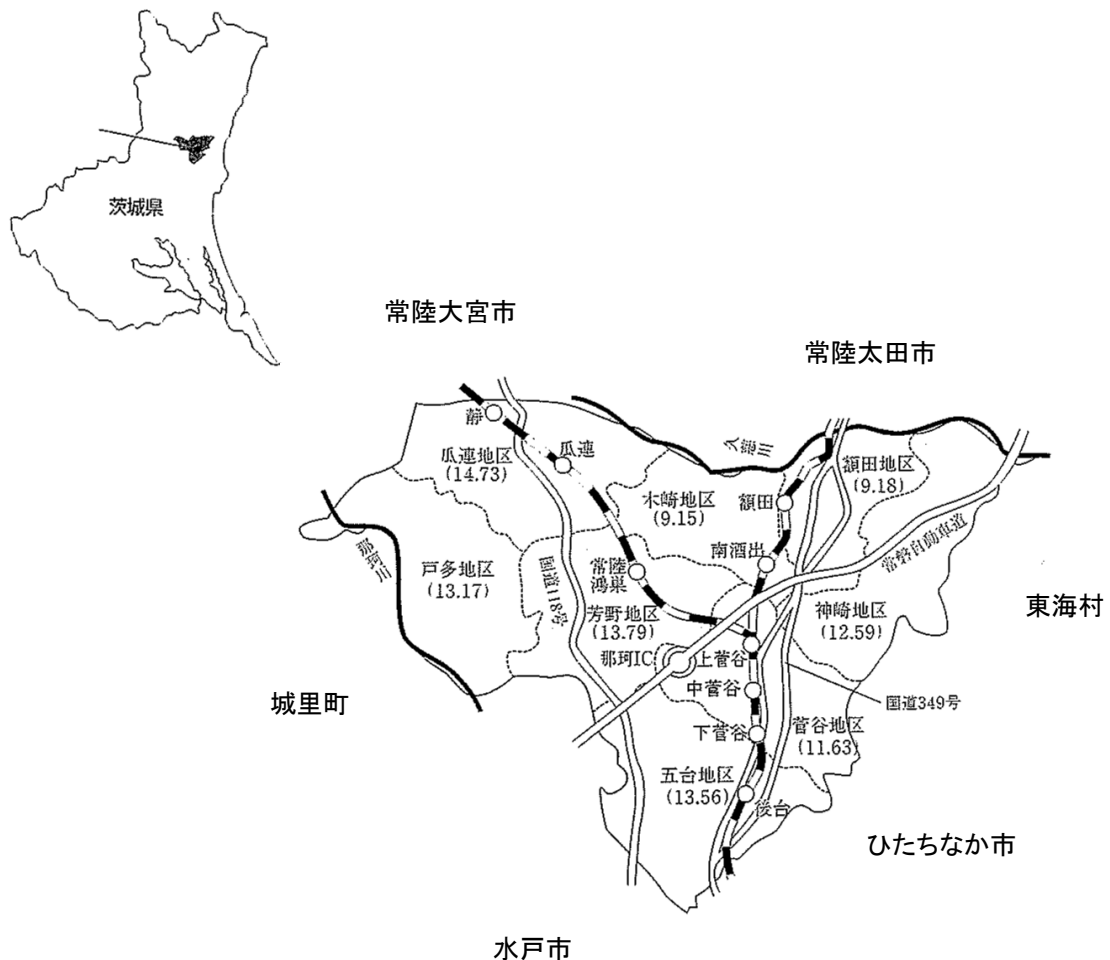
第1章 概況と沿革

那珂市の概況

位置と地勢 那珂市消防本部区域は、東京から北東へ約100km余り、茨城県の中央よりやや北寄りに位置し、県都水戸市の北部に隣接、東経140° 30' 20"・北緯36° 27' 12"にあり、遥か北に阿武隈山系を望み、市の北部を久慈川が西から東へ、また西部には那珂川が北西から南東へ、それぞれ流れています。地形は久慈川と那珂川の沿岸に拓けた水田地帯とこの両一級河川には含まれたほとんど平坦な那珂台地からなっており、気候は、太平洋に接近しているため比較的温暖なところです。

那珂市は四季折々の花が咲く県植物園や県民の森があります。晩秋にはシベリヤから白鳥が飛来する古徳沼や一ノ関溜、日本のさくら100選にも選ばれた八重桜の名所でもある静峰ふるさと公園など自然豊かな緑多い観光名所があります。面積は、97.82km²となっています。

行政区域図



面積・人口・世帯数 (令和4年4月1日現在)

区分	合計
面積(km ²)	97.82 km ²
人口(人)	54,104 人
世帯数	23,253 世帯

那珂市消防の沿革

年 月	記 事
昭和39年12月	・ 那珂町菅谷の那珂町消防団旧第1分団詰所跡に、職員10名と水槽付消防ポンプ自動車、消防ポンプ自動車計2台を配備し、那珂町消防常備部として発足。 初代消防長事務取扱 寺門治平那珂町長 就任。
昭和40年 6月	・ 消防吏員6名増員。 (職員数16名)
昭和42年 4月	・ 那珂町単独で那珂町消防本部(消防署)を設置。 ・ 那珂町初代消防署長 船橋 梅 就任。
昭和43年12月	・ 救急車(トヨタクラウン)を配備、救急業務開始。 ・ 那珂瓜連地区消防事務組合の設置許可を受ける。(地指令第331号)
昭和44年 4月	・ 那珂瓜連地区消防事務組合消防本部、消防署を発足。(1本部、1署、1分署) ・ 初代管理者 笹島栄次那珂町長、副管理者 生天目 正瓜連町長就任。 ・ 初代消防長事務取扱 生天目 正、消防署長 稲川三郎、分署長 岡崎 進就任。 ・ 那珂瓜連地区消防事務組合消防本部(署)に消防吏員22名、那珂瓜連地区消防署瓜連分署に、消防吏員17名で業務開始。
6月	・ 消防吏員2名採用。 (職員数41名)
11月	・ 水槽付消防ポンプ自動車(トヨタ)1台を購入、瓜連分署へ配備。
昭和45年 8月	・ 消防ポンプ自動車を購入、本署に配備。(更新)
10月	・ 那珂町における救急業務指定。(告示111号)
昭和46年 2月	・ 超短波無線電話装置3基購入。
6月	・ 那珂瓜連地区消防署長 石川 進 就任。 ・ 那珂町、瓜連町における救急業務指定。(告示111号)
昭和47年 3月	・ 超短波無線電話装置3基購入。
4月	・ 消防吏員4名採用。 (職員数45名)
昭和48年 5月	・ (株)綿引無線から救急車の寄贈、本署に配備。
昭和49年 3月	・ 日本自動車工業会から救急車の寄贈、本署に配備。
4月	・ 那珂町役場から事務職員1名の派遣。
	・ 消防吏員1名採用。 (職員数46名)
5月	・ 気象観測用機器を購入、気象観測開始。
6月	・ 寄贈救急車(綿引無線)を瓜連分署に配備、職員2名を増員し救急業務開始。
8月	・ 水槽付消防ポンプ自動車(日野)を購入、本署に配備(更新) ・ 消防ポンプ自動車を購入、瓜連分署に配備。(更新)
10月	・ 那珂瓜連地区危険物安全協会から広報車(日産サニー)の寄贈。 ・ 国民体育大会が笠松競技場で開催、隣接4消防本部で警備。
昭和50年 4月	・ 消防吏員3名を採用。 (職員数49名) ・ 那珂町上水道完成(菅谷、五台、額田、神崎一部)、消火栓218基使用可能。
6月	・ 那珂瓜連地区消防署瓜連分署長 萩野谷冬吉 就任。
8月	・ 那珂町浄水場との専用電話設置。
昭和51年 5月	・ 那珂瓜連地区消防署長 小口照男 就任。
11月	・ 消防吏員2名採用。 (職員数50名)

年	月	記	事
昭和52年	5月	・ 菅谷警察署との専用電話設置。	
	6月	・ 東京電力との専用電話設置。 ・ 水難救助艇購入、本署に配備。 ・ 広報車（コロナバン、カローラバン）を購入、本署と分署に配備。	
	7月	・ 消防広報紙「なか・うりづら」初版発行。	
	8月	・ 特別救助隊隊長以下14名で編成。	
	9月	・ 那珂町菅谷上宿に救助訓練塔完成。	
昭和53年	1月	・ 第1回署内消防職員意見発表会開催。	
	4月	・ 職員定数条例を64名に改正。	
	7月	・ 資材運搬車（いすゞフラットロー）を購入、本署に配備。 ・ 第7回消防救助技術関東地区指導会（千葉市）「ほふく救出」の部出場。	
	8月	・ 消防本部消防長 小口照男 就任。 ・ 第7回全国消防救助技術大会（千葉市）「ほふく救出」の部出場。	
昭和54年	1月	・ 消防本部（署）消防次長兼署長 鈴木 豊 就任。	
	4月	・ 消防吏員5名採用。（職員数55名）	
	7月	・ 第8回消防救助技術関東地区指導会（東京都）「高所人命救助」「ロープブリッジ救出」の部出場。	
	8月	・ 第8回全国消防救助技術大会（大阪市）「高所人命救助」の部出場。	
	10月	・ 水槽付消防ポンプ自動車購入（更新）、瓜連分署に配備。 ・ 那珂町大字菅谷杉原651-3番地、新消防庁舎起工式。	
昭和55年	4月	・ 消防吏員5名採用。（職員数60名）	
	5月	・ 那珂瓜連地区消防事務組合消防本部（署）新庁舎の移転。	
	7月	・ 消防本部消防長 桐原 仁 就任。 ・ 第9回消防救助技術関東地区指導会（川崎市）「高所人命救助」の部出場。	
	9月	・ 消防ポンプ自動車購入（増車）、本署に配備。	
	11月	・ 那珂瓜連消防歌制定。 ・ 第1回「消防防災フェスティバル」を消防本部で開催。	
	12月	・ 連絡車（トヨタクラウン）購入。	
昭和56年	3月	・ 那珂町上水道第1次拡張（木崎、神崎地区）により、消火栓45基使用可能。 ・ 那珂町消防団出場指令装置第1期工事完了。	
	4月	・ 消防吏員4名採用。（職員数64名） ・ 組織の条例改正により、1本部2署体制、名称を那珂瓜連地区消防署から那珂瓜連地区東消防署、瓜連分署を那珂瓜連地区西消防署に改正。	
	5月	・ 瓜連町に消火栓106基設置。	
	8月	・ 第10回消防救助技術関東地区指導会（横浜市）「ほふく救出」の部出場。	
	9月	・ 那珂町消防団出場指令装置第2期工事完了。	
	10月	・ 那珂瓜連地区消防事務組合本部旗作製。	
昭和57年	3月	・ 救急車購入（更新）、東消防署に配備。 ・ 原子力災害広報車購入、東消防署配備。	
	4月	・ 那珂瓜連地区消防事務組合例規集作成。 ・ 消防吏員3名採用。（職員数67名） ・ 消防本部に女子事務職員1名採用。	
	11月	・ 管内の小中学校及び一般から第1回の防災標語募集。	
昭和58年	1月	・ 西消防署に自家用給油取扱所設置。	
	2月	・ 那珂瓜連地区消防事務組合管理者 浅川泰郷 那珂町長 就任。	
	3月	・ （有）秋山不動産から広報車の寄贈。	

年	月	記	事
昭和58年	4月 7月	<ul style="list-style-type: none"> 消防吏員3名採用。(職員数70名) 第12回消防救助技術関東地区指導会(埼玉県)「ほふく救出」の部出場。 	
昭和59年	1月 3月 4月 7月	<ul style="list-style-type: none"> 毎月19日を管内の「消防の日」と制定。 常磐自動車道「那珂IC」開通、救急車を購入し東消防署に高速救急隊を配備。 救急業務ディスプレイ装置設置。 消防本部消防長事務取扱 浅川泰郷那珂町長 就任。 西消防署長 秋山虎彦 就任。 消防吏員2名採用。(職員数70名) 第13回消防救助技術関東地区指導会(千葉市)「引揚救助」の部出場。 	
昭和60年	3月 4月 7月 11月	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県防災行政無線局設置。 消防本部次長兼東消防署長 飛田毅宏 就任。 第14回消防救助技術関東地区指導会(川崎市)「ほふく救出」の部出場。 那珂町町制30周年記念「防災フェスティバル」参加。 	
昭和61年	2月 4月 5月 7月 8月	<ul style="list-style-type: none"> 救急車購入(更新)西消防署に配備。 消防吏員2名採用。(職員数70名) 救助艇購入、西消防署に配備。 第15回消防救助技術関東地区指導会(東京都)「引揚救助」の部出場。 第15回全国消防救助技術大会(神戸市)「引揚救助」の部出場。 台風10号による那珂川、久慈川の氾濫、危険区域に避難命令発令。 水槽付消防ポンプ自動車購入(更新)東消防署に配備。 	
昭和62年	2月 3月 4月 6月 7月 8月 12月	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時用浄水装置購入、東消防署に配備。 救助艇(和船)購入、東消防署に配備。 消防吏員4名採用。(職員数72名) 司令車新規購入(更新)東消防署に配備。 (財)日本防火協会から防火広報車の寄贈。 第16回消防救助技術関東地区指導会(千葉市)「引揚救助」の部出場。 消防ポンプ自動車購入(更新)西消防署に配備 東消防署に救助訓練塔新設。 	
昭和63年	4月 6月 7月 8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> 消防本部次長 秋山虎彦 就任。 東消防署長心得 横須賀 勝、西消防署長心得 小川静也 就任。 消防吏員2名採用。(職員数73名) 東・西消防署に潜水隊4名編成。 第17回消防救助技術関東地区指導会(横浜市)「ほふく救出」の部出場。 連絡車(日産マーチ)購入。 連絡車(ホンダアクティ)購入、西消防署に配備。 	
平成元年	3月 4月 7月	<ul style="list-style-type: none"> 救急車購入(更新)東消防署に配備。 消防吏員2名採用。(職員数74名) 瓜連町大字中里花林917-1番地、西消防署新庁舎起工式。 	
平成2年	3月 5月 7月 9月	<ul style="list-style-type: none"> 救助工作車購入、東消防署に配備。 西消防署新庁舎竣工、業務開始。 那珂瓜連地区危険物安全協会から連絡車(日産マーチ)の寄贈。 司令車(トヨタカーリーナ)購入、西消防署に配備。 第19回消防救助技術関東地区指導会(川崎市)「ほふく救出」「障害突破」の部出場 那珂瓜連地区消防事務組合副管理者 先崎千尋瓜連町長 就任。 	

年 月	記 事
平成3年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 消防本部の機構改革、2課1室8係に改正。 消防職員定数条例を83名に改正。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 消防吏員1名採用。(職員数74名)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 広報車(トヨタランクル)購入。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 第20回消防救助技術関東地区指導会(東京都)「障害突破」の部出場。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 第20回全国消防救助技術大会(大阪市)「障害突破」の部出場。 水槽付ポンプ自動車購入(更新)西消防署に配備。 台風18号による水害発生、災害対策本部設置。
11月	<ul style="list-style-type: none"> 那珂瓜連地区消防事務組合消防本部(東消防署)の敷地1,853㎡取得。
平成4年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 那珂瓜連地区消防事務組合消防本部及び那珂町消防団に消防庁長官から表彰旗を授与。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 消防署に当直司令制度導入。 消防吏員2名採用。(職員数76名)
6月	<ul style="list-style-type: none"> 通信指令室完成。勤務員の専従化を図る。
7月	<ul style="list-style-type: none"> 那珂瓜連地区消防事務組合消防本部(東消防署)の敷地2,370㎡取得。 第21回消防救助技術関東地区指導会(千葉市)「障害突破」の部出場。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 第21回全国消防救助技術大会(千葉市)「障害突破」の部出場。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 消防ポンプ自動車購入(更新)東消防署に配備。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 東・西消防署救急車に自動車専用電話、心電図伝送装置設置。
平成5年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 老人緊急通報システム導入。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 東消防署長 大菌弘夫、西消防署長 小川静也 就任。 消防吏員5名採用。(職員数80名)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 第22回消防救助技術関東地区指導会(横浜市)「障害突破」の部出場。 西消防署敷地の一部409㎡取得。
11月	<ul style="list-style-type: none"> 初の救急救命士誕生
平成6年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 消防本部消防長 秋山虎彦 就任
3月	<ul style="list-style-type: none"> 西消防署設置の119番専用電話が消防本部通信指令室に移設。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 消防緊急通信指令施設運用開始。 伊勢基本社から広報車2台の寄贈、東西両署に配備。 消防吏員6名採用。(職員数83名)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 第23回消防救助技術関東地区指導会(埼玉県)「障害突破」の部出場。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 那珂瓜連地区消防事務組合副管理者 関谷哲生瓜連町長 就任。 茨城県市町村職員共済組合球技大会で野球部4年連続6回目の優勝。
12月	<ul style="list-style-type: none"> 高規格救急車(三菱オプティマ)購入、東消防署に配備。
平成7年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 「阪神・淡路大震災」に救援隊として隊長以下5名を現地派遣。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 那珂瓜連地区消防事務組合管理者 小宅近昭那珂町長 就任。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数条例を87名に改正する。 消防吏員6名採用。(職員数86名)
9月	<ul style="list-style-type: none"> 国の緊急消防援助隊「救急部隊」に登録される。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 梯子付消防ポンプ自動車(30m)購入、東消防署に配備。
平成8年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 国の緊急消防援助隊部隊旗の授与。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応型(4WD)の高規格救急自動車購入、東消防署に配備。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数条例を103名に改正。 東消防署長 小川静也、西消防署長 山田勝三 就任。 消防吏員6名採用。(職員数93名)
6月	<ul style="list-style-type: none"> 救助艇(マリンジェット)購入、西消防署に配備。

年 月	記 事
平成8年 7月	・ 第25回消防救助技術関東地区指導会（東京都）「斜めブリッジ救助」の部出場。
8月	・ 第25回全国消防救助技術大会（札幌市）「斜めブリッジ救助」の部出場。
9月	・ 茨城県消防職員野球大会通算3度目の優勝
10月	・ 消防組織法一部改正、消防職員委員会発足。
11月	・ 瓜連町総合防災訓練を実施。（瓜連町宮グラウンド）
平成9年 4月	・ 茨城県防災航空隊に1名派遣。 ・ 消防吏員4名採用。（職員数97名）
12月	・ 消防本部機構改革、総務課、予防課、警防課の3課を設立。 ・ 高規格救急自動車（いすゞ）購入、西消防署に配備。
平成10年 2月	・ 第21回茨城県消防職員意見発表茨城県大会開催。（那珂町中央公民館）
4月	・ 消防本部消防長事務取扱 小宅近昭那珂町長 就任。 ・ 消防本部次長 小川静也 就任。 ・ 東消防署長 鈴木優、西消防署長 海野真 就任。 ・ 消防吏員5名採用。（職員数100名）
7月	・ 第27回消防救助技術関東地区指導会（川崎市）「斜めブリッジ救助」 「ほふく救出」「障害突破」の部出場。 ・ 救命ボート購入（船外機付）、西消防署に配備。
8月	・ 栃木県北部の集中豪雨により那珂川氾濫、災害対策本部設置。
10月	・ 第27回全国消防救助技術大会（大阪市）「斜めブリッジ救助」の部出場。 ・ 携帯電話119番専用回線開通。
平成11年 4月	・ 消防本部消防長 小川静也 就任。 ・ 予算処理の電算化開始。
7月	・ 第28回消防救助技術関東地区指導会（横浜市）「斜めブリッジ救助」 「ほふく救出」「障害突破」の部出場。
平成12年 1月	・ 水槽付消防ポンプ自動車購入（更新）東消防署に配備。
4月	・ 消防吏員1名採用。（職員数99名）
7月	・ 第29回消防救助技術関東地区指導会（埼玉県）「斜めブリッジ救助」 「ほふく救出」の部出場。
9月	・ 放射能対応資機材整備（線量計、防護服）
平成13年 3月	・ 那珂瓜連地区危険物安全協会から連絡車（ホンダロゴ）寄贈。
4月	・ 那珂瓜連地区事務組合消防本部に名称変更。 ・ 茨城県生活環境部消防防災課に1名派遣。 ・ 消防吏員3名採用。（職員数101名）
7月	・ 第30回消防救助技術関東地区指導会（東京都）「斜めブリッジ救助」「ほふく救出」 の部出場。
10月	・ 第19回茨城県消防職員駅伝競走大会「準優勝」。
平成14年 4月	・ 次長兼警防課長 海野真、次長兼東消防署長 鈴木優、西消防署長 大藪弘夫 就任。 ・ 消防吏員5名採用。（職員数102名）
7月	・ 第31回消防救助技術関東地区指導会（千葉市）「斜めブリッジ救助」の部、東署 西署両チーム出場。
8月	・ 第31回全国消防救助技術大会（名古屋市）「斜めブリッジ救助」の部、東署救助隊 出場。「全国1位」
12月	・ 通信指令室増築工事完了。

年 月	記 事
平成15年 2月	・ 第31回全国消防救助技術大会「斜めブリッジ救助」の部において東消防署救助隊全国1位により茨城県知事賞を受賞。
3月	・ 那珂町総合防災訓練を実施。(第4中学校)
4月	・ 消防本部消防長 海野眞、次長兼総務課長 鈴木優、就任 東消防署長 大藪弘夫、西消防署長 石川孝次 就任。
	・ 消防吏員3名採用。(職員数99名)
6月	・ 那珂瓜連地区事務組合消防本部(訓練場)の敷地912㎡取得。
7月	・ 第32回消防救助技術関東地区指導会(横浜市)「斜めブリッジ救助」の部、東署救助隊出場。
8月	・ 司令車購入(更新)西消防署に配備。
10月	・ 第20回茨城県消防職員駅伝競走大会「準優勝」。
平成16年 4月	・ 消防本部消防長 鈴木優、次長兼東消防署長 大藪弘夫、西消防署長 石川邦男 就任。
	・ 消防吏員5名採用。(職員数101名)
7月	・ 第33回消防救助技術関東地区指導会(川崎市)「ほふく救出」の部出場。
10月	・ 資材運搬車購入(更新)東消防署に配備。 新潟県中越地震に救助支援隊として7名を現地派遣。
平成17年 1月	・ 1月21日、那珂町と瓜連町が合併、那珂市が誕生。
	・ 那珂瓜連地区事務組合消防本部を那珂市消防本部、那珂瓜連地区東消防署を那珂市東消防署、那珂瓜連地区西消防署を那珂市西消防署に名称変更。
	・ 那珂町消防団、瓜連町消防団合併に伴い、那珂市消防団に名称変更。
2月	・ 那珂市消防本部旗作成
	・ 消防ポンプ自動車購入(更新)東消防署に配備。
	・ 第28回茨城県消防職員意見発表茨城県大会にて優勝。「伊奈町」
4月	・ 消防本部参事兼東消防署長 澤幡祝行、消防本部参事兼総務課長 石川孝次、西消防署長 古橋昭三 就任。
	・ 消防吏員5名採用。(職員数107名)
5月	・ 第28回全国消防長会関東支部意見発表会出場。「長野市」
7月	・ 第34回消防救助技術関東地区指導会(さいたま市)「障害突破」の部出場。
	・ 那珂市消防団旗及び分団旗作成
10月	・ 第56回県北地区消防ポンプ操法大会、那珂市が当番で実施
	・ 第21回茨城県消防職員駅伝競走大会「初優勝」
	・ 消防ポンプ自動車(更新)西消防署に配備
平成18年 4月	・ 消防本部消防長 澤幡祝行、次長兼総務課長 石川孝次、就任。 東消防署長 平野保雄、西消防署長 大河徳納、就任。 茨城県防災航空隊に1名派遣。
	・ 消防吏員3名採用。(職員数105名)
7月	・ 第35回消防救助技術関東地区指導会(横浜市)「障害突破」の部出場。
12月	・ 慶和病院からオイルフェンス(40m)寄贈。
平成19年 2月	・ 東署高規格救急車(トヨタ)更新
4月	・ 消防本部消防長 石川孝次、東署長 萩野谷幸雄、西署長 大曾根 栄就任。
	・ 人事交流により、消防職員2名市役所出向。
8月	・ 第36回全国消防救助技術指導会(東京都)「水上の部」初出場
平成20年 2月	・ 通信指令室(高機能指令装置)整備
4月	・ 消防吏員2名採用。(職員数104名)
	・ 消防本部次長兼総務課長 平野保雄、次長兼警防課長 三沢久晴就任。
	・ 那珂市消防団女性部結成(団員数16名)

年 月	記 事
平成20年 7月	・ 第37回消防救助技術関東地区指導会（千葉市）「障害突破」「引揚救助」「溺者救助・溺者搬送」の部出場。
8月	・ 第37回全国消防救助技術大会（北九州市）「障害突破」の部出場。「全国4位」
10月	・ 東署高規格救急車（日産）購入（更新）
平成21年 4月	・ 消防本部消防長 平野保雄、次長兼総務課長 三沢久晴、次長兼警防課長 大河徳納、西消防署長 栗原信一、就任。 ・ 人事交流により、消防職員1名市役所出向。
7月	・ 第38回消防救助技術関東地区指導会（横浜市）「障害突破」「引揚救助」「溺者救助・溺者搬送」の部出場。 ・ 第38回全国消防救助技術大会（横浜市）「引揚救助」の部出場。「全国4位」 〃 「溺者搬送」の部出場。
12月	・ 西署高規格救急車（日産）購入（更新）
平成22年 4月	・ 消防本部次長 三沢久晴、参事兼東消防署長 大曾根栄、西消防署長 大内誠一、就任。
7月	・ 第39回消防救助技術関東地区指導会（川崎市）「障害突破」「引揚救助」「溺者救助」「溺者搬送」の部出場。
8月	・ 第39回全国消防救助技術大会（京都市）「障害突破」の部出場。 〃 「溺者救助」の部出場。
12月	・ 救助工作車購入（更新）東消防署に配備。
平成23年 2月	・ 那珂市長 海野 徹市長就任。
3月	・ 東北地方太平洋沖地震発生により災害対策本部設置。
4月	・ 消防本部消防長 根本栄、参事兼警防課長 萩野谷孝、東消防署長 加藤豊、西消防署長 海老沢幸男、就任。 ・ 消防吏員5名採用（職員数100名） ・ 一乗院毘沙門堂から広報車（ダイハツハイゼット）寄贈。 ・ 茨城トヨタ自動車㈱から連絡車（トヨタパッソ）寄贈。
7月	・ 第40回消防救助技術関東地区指導会（東京都）「障害突破」「ブリッジ救助」「溺者救助」「溺者搬送」の部出場。
8月	・ 第40回全国消防救助技術大会（東京都）「溺者救助」の部出場。
平成24年 4月	・ 消防次長兼警防課長 萩野谷孝、就任。 ・ 消防吏員3名採用（職員数100名） ・ 茨城県生活環境部消防安全課に1名派遣。 ・ 消防本部の機構改革 予防課に査察係を新設。 ・ 弘願寺から広報車（ダイハツハイゼット）寄贈。
7月	・ 第41回消防救助技術関東地区指導会（横浜市）「障害突破」「引揚救助」「溺者救助」「溺者搬送」の部出場。
12月	・ 水槽付消防ポンプ自動車購入（更新）西消防署に配備。
平成26年 4月	・ 消防本部消防長 豊島克美、次長兼総務課長 増子正行、参事兼予防課長 寺門忠、東消防署 後藤洋治、西署長 海野幹雄 就任。 ・ 消防吏員5名採用（職員数100名）
平成26年 7月	・ 第43回消防救助技術関東地区指導会（千葉市）「障害突破」「溺者救助」の部出場。
10月	・ 第65回茨城県消防ポンプ操法県北地区大会、那珂市が当番で実施。
平成27年 4月	・ 消防本部消防長 増子正行、次長兼総務課長 寺門 忠、東消防署長 野口英雄、西消防署長 山田三雄 就任。 ・ 消防吏員1名採用（職員数99名）
9月	・ 常総市水害発生に伴い職員現地派遣

年 月	記 事
平成28年 1月 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・いばらき消防指令センター運用開始に伴い、119回線移動（1月26日～） ・消防本部消防長 寺門 忠、参事兼警防課長 海野 幹雄 参事兼東消防署長 野口 英雄、西消防署長 寺門 博文 就任。 ・消防吏員1名採用（職員数97名） ・広報1号車 東消防署配備
7月 8月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第45回消防救助技術関東地区指導会（川崎市）「障害突破」の部出場。 ・第45回全国消防救助技術大会（松山市）「障害突破」の部出場。 ・多目的車（MVF）東消防署配備
平成29年 4月 7月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部消防長 海野 幹雄、次長兼警防課長 野口 英雄 東消防署長 寺門 博文、西消防署長 宮田 好男 就任。 ・消防吏員1名採用（職員数97名） ・第46回消防救助技術関東地区指導会（山梨県）「ロープブリッジ救助」の部出場。 ・高規格救急車（更新）東消防署配備
平成30年 4月 7月 10月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部消防長 飛田 裕二、次長兼予防課長 山田 三雄 西消防署長 鈴木 将浩 就任。 ・消防吏員3名採用（職員数97名） ・第47回消防救助技術関東地区指導会（東京都）「障害突破」の部出場。 ・高規格救急車（更新）東消防署配備 ・火災原因調査車（更新）予防課配備
平成31年 4月 令和元年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部消防長 山田 三雄 就任。 ・消防吏員2名採用（職員数97名） ・水槽付消防ポンプ自動車購入（更新）東消防署に配備。
令和 2年 4月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・次長兼総務課長 大谷 貞章、東消防署長 鈴木 将浩、 西消防署長 小菌井 司 就任。 ・消防吏員1名採用（職員数97名） ・高規格救急車（更新）西消防署配備
令和 3年 4月 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部消防長 鈴木 将浩、参事兼東消防署長 元木 利光 就任。 ・消防吏員2名採用（職員数97名） ・静岡県熱海市土石流災害に緊急消防援助隊として8名を現地派遣。
令和 4年 3月 令和 4年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・市内事業所から広報車（トヨタノア1台・ダイハツハイゼット2台）寄贈。 ・市内事業所から消防資機材（ホース洗浄機1台・自走式動噴2台）寄贈。 ・西消防署長 堀江 正美 就任。 ・消防本部機構改革 東消防署に指揮隊配置。

那珂市の位置と消防力

位 置

名 称	位 置	建物構造	面 積 (㎡)			建築月日
			建築面積	延べ面積	敷地面積	
消防本部 東消防署	茨城県 那珂市菅谷651番地3	鉄筋コンクリート造 2階建	1,247.84	1,845.83	6,335.47	昭和55年3月31日
西消防署	茨城県 那珂市中里917番地1	鉄筋コンクリート造 2階建	839.28	1,041.7	2,979.53	平成2年2月28日

管内図・消防力の分布



消防本部及び消防署の組織

消防本部は3課3グループで構成され、総務課、予防課、警防課に分かれ、消防署については、2署を置き、ともに総務、予防、警防、救急、救助、指令の6グループ制で2部交代により出動体制をとり勤務している。

